

第 1 号議案

令和元年度事業報告及び収支決算に関する件

〔Ⅰ〕令和元年度事業報告書

自 令和元年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

【令和元年度の重点事項】

1. J A S ・表示制度（以下「J A S 制度等」という。）を巡る様々な動向を踏まえ、情報収集を行うとともに農林水産省はじめ関係省庁の指導の下、関係団体と連携を図りながら、J A S 制度等の運用について積極的な役割を果たすよう努力した。
2. 関係団体の協力を得て、下記の諸事業の実施等を通じ、J A S 制度等の普及啓発及び情報発信等に努めた。

【諸事業の実施】

1. J A S 普及啓発事業

(1) 情報誌の発行・配布による広報活動

情報誌「J A S と食品表示」については、J A S や食品表示に関連する情報を中心としつつ、有機や林産関係の内容充実にも努めながら毎月 1 回発行し、関係団体・事業者、関係行政機関及び消費者団体等に配布した。

また、新たな試みとして、全国の図書館の中から適宜抽出した先にサンプルとして情報誌を送付する活動を前年度から始め、今年度も継続してきた結果、所蔵を希望する図書館は現在 32 館にのぼっている。

情報誌のより一層の普及を目指し、各号の記事に関連する非会員の団体・企業に毎月約 100 冊の情報誌を送付している。令和 2 年 1 月号より、巻頭を含めカラーページを増やし、誌面を充実させた。これらの結果、今年度の情報誌の定期購読者を新たに 9 件獲得した。

(2) ホームページの刷新及び最新情報のメール配信

J A S 協会のホームページを一新し、内容を充実させることで、会員だけでなく、非会員の方々にも J A S 制度や講習会の開催等に関する有益な情報を配信することに努めた。また、団体会員に対して迅速な情報の提供が必要な際は、メールにて最新情報を発信した。

(3) 媒体広告

消費者団体等からの要請、広告効果などを総合的に判断し、J A S 制度、規格などの広告を掲載した。

(4) イベントへの出展等

イベント概要	当日の様子
第14回食育推進全国大会inやまなし 期日：令和元年6月29日～30日 会場：山梨県立産業展示交流館アイメッセ山梨、甲府駅北口よっちゃばれ広場（山梨県甲府市） 主催：農林水産省、山梨県、甲府市、第14回食育推進全国大会山梨県実行委員会 	関係団体・企業の協力のもと、JASマーク品、ポスター、パネルの展示により、JAS制度の普及啓発を行った。「さかなつりゲーム」を設置し、ゲームに参加した子供達には景品として、JAS品（植物性たん白、果実飲料、削り節パック、インスタントスープ等）を配布し、ブース内を見学された消費者、学生や行政機関の方々には、JAS品を通じて大いに興味を示してもらった。 （来場者数：2日間で延べ 21,500 人） 

2. JAS 講習事業等

(1) 食品製造業品質管理担当者等一般講習会の開催

一般加工食品の JAS 認定申請製造業者及び認定製造業者の品質管理担当者等を対象とする一般講習会を、次表のとおり実施した。

開催日（2日間）	場 所	受講者数	内 容
【第1回】 令和元年5月14日～15日	石垣記念 ホール(東京)	120 名	・ JAS 制度について ・ 食品の表示について ・ 品質管理概論 ・ 確認テスト 「JAS 制度と食品の表示」 ・ 食品の安全性 ・ 食品工場における衛生管理 ・ 品質管理活動の実際
【第2回】 令和元年9月10日～11日	TKP ガーデン シティ(大阪)	148 名	
【第3回】 令和2年1月28日～29日	エッサム神田 ホール(東京)	150 名	

(2) 有機関係 JAS 講習会の開催

有機加工食品の格付（又は格付の表示）を行う生産行程管理者、小分け業者及び輸入業者を対象とする JAS 講習会を、次のとおり実施した。

開催日	場 所	受講者数	内 容
令和元年 11 月 14 日	製粉会館 (東京)	40 名	・ 総論 ①JAS 法及び有機食品の検査認証制度 ②有機加工食品の日本農林規格及び認証の技術的基準 ・ 各論（業種ごとにコース分け） <u>A コース</u>（生産行程管理者・小分け業者対象） ①生産行程の管理又は把握の方法及び格付の方法 ②小分けの方法及び格付の表示の方法 <u>B コース</u>（輸入業者対象） ③輸入品の受入れ・保管の方法及び格付の表示の方法

(3) 特別セミナー等の開催

ア．情報提供の一環として、当協会会員を中心に、特別セミナーを次表のとおり開催した。

開催日	場 所	参加者数	内 容
令和元年 8 月 22 日	石垣記念 ホール (東京)	149 名	・ 「ISO22000改訂のポイントとJFS」 講師：湯川 剛一郎 氏 食品産業関連技術懇話会 技術士 ・ 「食品工場における微生物的危害要因」 講師：池亀 公和 氏 ジャパン・フードセーフティードクター(株) ・ 「経過措置期間が迫る食品表示基準について」 講師：内藤 瑞絵 氏 消費者庁食品表示企画課 課長補佐 講師：高橋 亨 氏 消費者庁食品表示企画課 課長補佐
令和2年 2 月 17 日	石垣記念 ホール (東京)	96 名	・ 「穀物政策をめぐる最近の状況」 講師：堺田 輝也 氏 農林水産省政策統括官 穀物課長 ・ 「中小工場における HACCP 導入にあたっての注意点」 講師：江藤 諮 氏 NPO 法人 バイオメディカルサイエンス研究会 参与

			・「栄養成分表示や原料原産地など、改正された食品表示基準への現在の対応状況と今後の改正スケジュールについて」 講師：坊 英哲 氏 消費者庁 食品表示企画課 法令係長
【林産】 令和元年 11月7日	製粉会館 (東京)	31 名	・「改正建築基準法の概要について」 講師：原田 寿郎 氏 森林総合研究所 研究ディレクター ・「林業白書のポイントについて」 講師：加藤 靖之 氏 林野庁 林政部 年次報告班 課長補佐 ・「JAS 規格の最近の動向について」 講師：三重野 信 氏 農林水産省 食料産業局 食品製造課 基準認証室 規格第2班 課長補佐
【有機】 平成31年 4月11日 4月18日	製粉会館 (東京) 兵庫県民 会館 (神戸)	17 名 21 名	・「有機料理を提供する飲食店等の管理方法 JAS 解説」 講師：丸山 豊 氏 規格検討プロジェクトチーム 事務局 ・「レストランの衛生管理と HACCP 導入」 講師：江藤 諒 氏 NPO 法人 バイオメディカルサイエンス研究会 参与
【有機】 令和元年 10月18日	製粉会館 (東京)	49 名	・「有機レストラン JAS 認証への新たな取り組み」 講師：山崎 友男 氏 (株)クレヨンハウス オーガニック事業部 ・「有機畜産物の指定農林物資化ほか最近の動向」 講師：長谷 亮一 氏 農林水産省 食品産業局 食品製造課基準認証室 規格専門官 ・「英国の EU 離脱について」 講師：島崎 真人 氏 一般社団法人 日本農林規格協会 専務理事 =登録認証機関対象= ・「登録認証機関の立入検査等の結果について」 講師：吉田 智美 氏 独立行政法人 農林水産消費安全技術センター 規格検査部規格検査課 専門調査官

※所属・役職名は、開催当時のもの

イ. 時宜に適した食品表示セミナーを年4回開催した。

3. 消費者庁委託事業

(1) 魚介類の名称のガイドライン検討委託業務（令和元年4月～令和2年3月）

平成27年施行の「食品表示基準」で義務づけられている魚介類の名称の表示は、水産庁が平成19年に制定したガイドラインを基本としている。一方、昨今の魚介類を巡る状況の変化により改正に係る要望が多い為、検討会を計4回開催し、その内容を取りまとめたガイドライン改正案を提出した。

(2) 令和元年度新たな加工食品の原料原産地表示制度等に係る表示実態調査（令和元年6月～12月）

現在流通中の商品について、平成27年施行の「食品表示基準」への対応状況と平成29年施行の「新たな加工食品の原料原産地表示制度」の表示状況等の調査と分析を行う為、スーパーの1店舗において商品約1,500点の義務表示事項を撮影し、その画像の整理、分析後、調査報告書を提出した。

(3) 令和元年度弁当、惣菜等の裏面表示にかかる実態調査（令和元年7月～12月）

食品の表示は商品の見やすい箇所に表示する旨「食品表示基準」中に規定されているが、店頭の商品の中には裏面などに表示されている場合がある。その点が国会で問題提起された為、計6社のスーパーとコンビニにおいて、現在流通中の商品を計120点購入し、表示箇所を撮影後、その画像の整理、分析を行い、購入した店舗の本社等の担当者に聞き取り調査を実施し、調査報告書を提出した。

(4) アレルギーの推奨表示等に関する実態調査の実施及び集計業務（令和元年11月～令和2年3月）

食品のアレルギー表示対象である28品目中「推奨表示」とされている21品目に関して、事業者の表示取組実態を調査する為、「アレルギーの推奨表示等に関する実態調査質問票」と題したアンケートを食品関連事業者に送付し、その結果（約650件分）を集計した調査報告書を提出した。

(5) 令和元年度新たな加工食品の原料原産地表示制度に係る食品関連事業者の理解度等に関する調査（令和2年2月～3月）

昨年度行った「新たな加工食品の原料原産地表示理解度調査」の追跡調査の為、昨年度と同じ設問を同じ事業者に対して実施し、その結果（約700件分）を集計した調査報告書を提出した。

4. J A S 規格集等作成事業

前回の追録実施（平成30年1月）以降にJ A S規格等の規程及び一部改訂された品目について、その内容を整理したJ A S規格集（16規格）を追録として発行した。また、従来のハンディ版を500冊増刷した。

5. 諸会議の開催

(1) 総会

当協会定款に基づき、次表のとおり総会を開催し、議案について可決承認された。

期 日	場 所	議 案
(定例) 令和元年 6月20日	ホテルモントレ 銀座 (東京)	・平成30年度事業報告及び収支決算に関する件 ・会費及び賛助会費の額及び納入方法に関する件 ・役員の選任に関する件

(2) 理事会

当協会定款に基づき、次表のとおり理事会を開催し、議案について可決承認された。

期 日	場 所	議 案
【第1回】 令和元年 5月23日	製粉会館 (東京)	・平成30年度事業報告及び収支決算に関する件 ・会費及び賛助会費の額及び納入方法に関する件 ・役員候補者に関する件 ・令和元年度通常総会の開催に関する件
【第2回】 令和元年 6月20日	ホテルモントレ 銀座 (東京)	・会長、副会長及び専務理事の選定について
【第3回】 令和2年 3月5日	製粉会館 (東京)	・令和2年度事業計画及び収支予算に関する件

(3) 連絡協議会

当協会の団体会員の出席を得て、次表のとおり連絡協議会を開催した。

各回において、農林水産省 食品製造課、林野庁及びFAMICの担当官から行政の最新情報の提供を受けると共に、会員との意見交換を図った。

期 日	場 所	主要議題
【第1回】 平成31年 4月16日	製粉会館 (東京)	・JAS法改正後のJASの新規格の紹介と今後の予定 渡部 英悦 氏 農林水産省 食料産業局 食品製造課 課長補佐 ・農林水産省のJAS支援事業の紹介 ① JAS規格認証支援事業のねらいと応募状況 橋本 佳子 氏 農林水産省 食料産業局 食品製造課 係長 ② JAS構造材実証支援事業のねらいと現状 福島 純 氏 農林水産省 林野庁 木材産業課 住宅資材技術専門官

		③ J A S マークへの標語について 古本 明久 氏 農林水産省 食料産業局 食品製造課 課長補佐 ・ J A S 制度の運用について ① 登録認証機関の登録の基準等に関する Q & A について 古本 明久 氏 農林水産省 食料産業局 食品製造課 課長補佐 ② 登録認証機関への F A M I C が行う調査について 牟田 大祐 氏 (独) 農林水産消費安全技術センター 規格検査部 規格検査課 課長 ③ F A M I C 認定センターの役割について 大貝 真弓 氏 (独) 農林水産消費安全技術センター 認定センター所長 ・ J A S 協会 30 年度事業概要 (報告) 島崎 真人 氏 (一社) 日本農林規格協会 専務理事
【第 2 回】 令和元年 12 月 23 日	製粉会館 (東京)	・ 農林水産省 食料産業局関係 令和 2 年度予算について 西川 真由 氏 農林水産省 食料産業局 食品製造課 基準認証室長 ・ 農林水産省食料産業局食品製造課基準認証室の最近の話題 J A S の国際化を見据えた普及への取組について 西川 真由 氏 農林水産省 食料産業局 食品製造課 基準認証室長 ・ 農林水産省食料産業局食品製造課食品企業行動室の最近の話題 令和 2 年度予算について J F S の広まりと反響 都築 信行 氏 農林水産省 食料産業局 食品製造課 食品企業行動室長 ・ F A M I C 規格検査部の最近の動向 牟田 大祐 氏 (独) 農林水産消費安全技術センター 規格検査部 企画課 課長 ・ 林野庁林政部木材産業課木材製品技術室の最近の話題 令和 2 年度予算 鈴木 竜也 氏 林野庁 林政部 木材産業課 木材製品技術室 課長補佐